

平成25年度 妙高市教育研究会社会科部 活動報告

部長 岡田 和則

1 研究主題 地域に根差した授業改善 ～地域素材の教材化を通して～

2 研究の概要

- ・授業に生かせる地域素材を発掘する。
- ・「素材」を「教材」に高める教材開発を行う。
- ・追究意欲を育む学習過程の在り方を探る。(資料、発問・指示、学び合い)

3 研究の実際

＜地域素材の発掘 地域巡検の実施＞

- ・期日 8月23日(金) ・参加者 12名
 - ・コース 蔵々発電所(新潟県最古の発電所)～清水ブルーベリー園(高原の特性を生かした果樹栽培)～関川関所道の歴史館(北国街道関所跡)～岡倉天心六角堂～妙高山ろく直売センター「とまと」～大洞原(高原野菜栽培の様子)～関山神社(県の無形文化財 火祭り)
- 妙高市に初めて勤務する職員も多いところから、地域にはどのような素材があるか、またどの学年で利用できるか、今年度は妙高・妙高高原地区を中心に巡検を行った。特に清水ブルーベリー園は、初めての見学箇所でもあり、参加者からは「生活科、社会科、総合的な学習での教材化が図られそうだ。」「地域の特性を生かし、そこで働く人々の工夫や努力がよく分かる。」との感想が聞かれた。



＜追究意欲を育む学習過程 授業研究の実施＞

- ・期日 11月7日(木) ・会場 新井中学校 1年5組 ・参加者 20名
 - ・研究主題「生徒が意欲的に学習活動に取り組める授業展開の工夫」
 - ・単元名「オセアニア州 強まるアジアとの結びつき」
 - ・授業者：新井中学校 堀川 賢 教諭 ・指導者：糸魚川東中学校 校長 小松 敦 様
- 市教研一斉研修会の日に合わせて、授業研究会を行った。協議会では、「資料の妥当性」「学習課題の提示」「生徒同士の学び合い」「発問・指示」について、授業者からの説明及び質疑応答を行った。また後半の部では、今年度各自が取り組んだ社会科授業実践のうちから1実践を紹介し、意見交換を行うワークショップを実施した。

4 成果と課題

巡検では、新たな素材を発掘し、その後の授業へつなげる契機となった。ただ諸行事等が重なり、参加者が少なめだった。次年度は妙高市に初めて採用された方へも案内を出し、広く参加者を募って、妙高市の地域素材への理解を深めたい。

公開授業は今回「地域素材の教材化」を図った授業ではなかった。中学校では単元の関係もあるため、次年度は時期も含めて早目に計画を立案し、主題に沿った授業研究を行いたい。